

平成31年度  
全国学力・学習状況調査  
の結果について



令和元年11月  
泉南市教育委員会

# 小学校の結果の概要

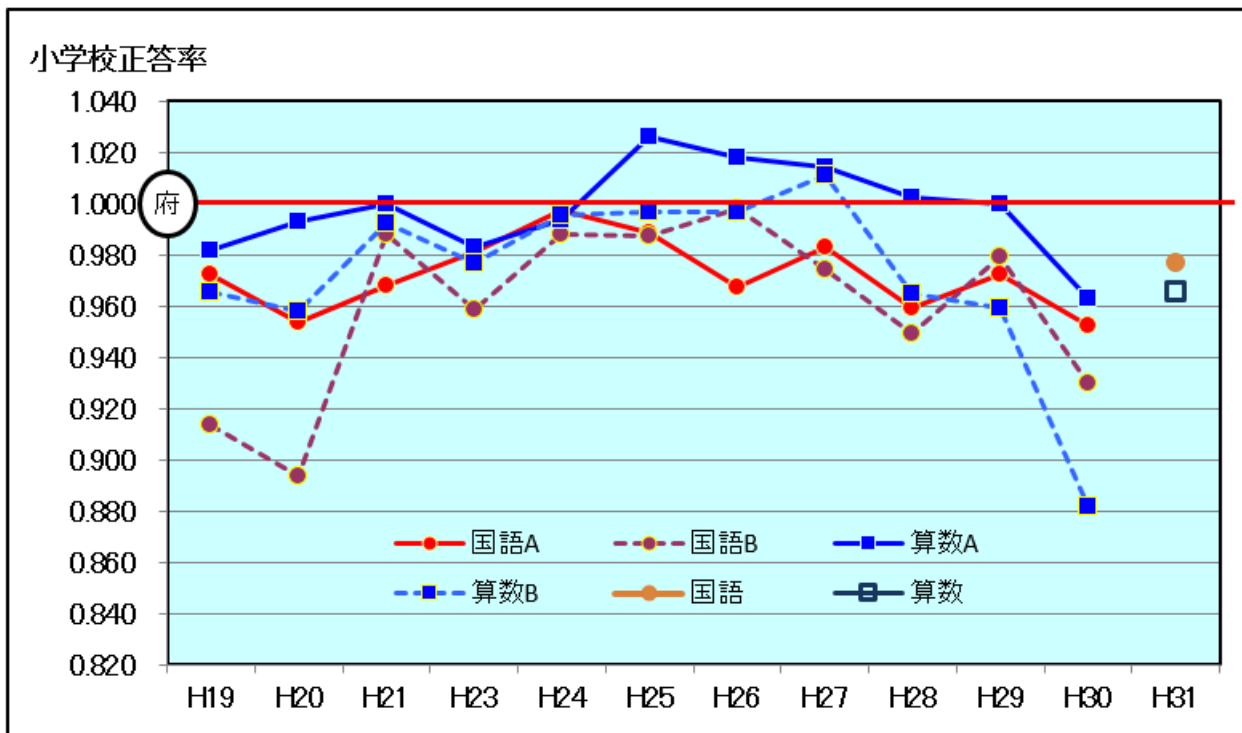
## 1、 経年変化の様子 対象学年は第6学年 平成22年度は悉皆調査は実施されず。

国語	全国学力調査						大阪府学力調査				全国学力調査												
	H19		H20		H21		H23		H24		H25		H26		H27		H28		H29		H30		H31
	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	
泉南市	77.2	53.0	59.8	42.0	66.1	48.8	86.4	62.2	72.9	64.7	60.5	47.3	68.4	52.5	66.5	61.1	68.4	52.6	70.0	53.3	65.0	48.8	58.6
対府比	0.972	0.914	0.954	0.894	0.968	0.988	0.981	0.958	0.997	0.988	0.989	0.987	0.967	0.998	0.983	0.974	0.959	0.949	0.972	0.979	0.952	0.930	0.977
対全国比	0.945	0.855	0.914	0.832	0.946	0.966					0.965	0.957	0.938	0.946	0.950	0.934	0.938	0.910	0.938	0.923	0.918	0.887	0.918
大阪府	79.4	58.0	62.7	47.0	68.3	49.4	88.1	64.9	73.1	65.5	61.2	47.9	70.7	52.6	67.6	62.7	71.3	55.4	72.0	54.4	68.3	52.5	60.0
全国	81.7	62.0	65.4	50.5	69.9	50.5	-	-	-	-	62.7	49.4	72.9	55.5	70	65.4	72.9	57.8	74.6	57.7	70.8	55.0	63.8

算数	全国学力調査						大阪府学力調査				全国学力調査												
	H19		H20		H21		H23		H24		H25		H26		H27		H28		H29		H30		H31
	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	
泉南市	79.0	58.6	70.7	47.8	78.4	53.4	62.3	50.0	63.2	42.7	79.1	57.1	78.7	56.1	75.9	44.6	77.1	44.2	78.0	42.7	60.7	45.0	64.3
対府比	0.981	0.965	0.993	0.958	1.000	0.993	0.983	0.977	0.994	0.995	1.026	0.997	1.018	0.996	1.014	1.011	1.002	0.965	1.000	0.959	0.963	0.882	0.965
対全国比	0.962	0.921	0.979	0.926	0.996	0.974					1.025	0.978	1.008	0.964	1.009	0.991	0.993	0.936	0.992	0.922	0.956	0.873	0.965
大阪府	80.5	60.7	71.2	49.9	78.4	53.8	63.4	51.2	63.6	42.9	77.1	57.3	77.3	56.3	74.8	44.1	76.9	45.8	78.0	44.5	63.0	51.0	66.6
全国	82.1	63.6	72.2	51.6	78.7	54.8	-	-	-	-	77.2	58.4	78.1	58.2	75.2	45	77.6	47.2	78.6	46.3	63.5	51.5	66.6

## 2、 経年変化のグラフ 年度によって問題の難易度が違うので大阪府平均に対する比という形で表現している。



○ 小学校では、昨年度同様2教科とも全国平均を下回った。しかし、国語、算数で本市の前年度比を大きく上回った。また、無回答率は全国平均より低く、学習意欲が高まっていると考えられる。

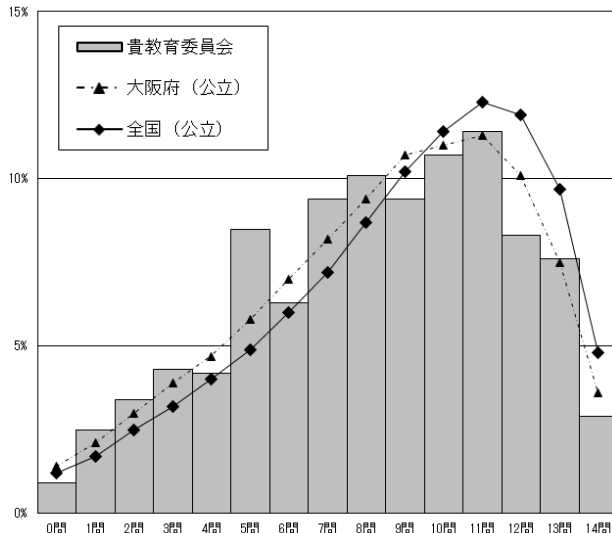
## 3、 成果・課題のあった特徴的な設問の結果 ( )内は全国との差

国語	<p>成果 梅干しづくりについて【知りたいこと】を調べるために、選んだ本の【目次の一部】から読んだページとして適切なものを選択する設問の正答率89.7% (+1.2)</p> <p>課題 公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の□の1文を、接続語「そこで」を使って2文に分けて書き直す設問の正答率36.5% (-11.3)</p>
算数	<p>成果 350-97について、引く数の97を100にした式にして計算するとき、ふさわしい数値の組み合わせを書く設問の正答率85.4% (+3.6)</p> <p>課題 減法の式が、示された形の面積をどのように求めていくのかを、数や演算の表す内容に着目して書く設問の正答率46.3% (-9.0)</p>

# 小学校 国語

平均正答率は 58.6%で、大阪府や全国を下回っているが、その差は小さくなっている。昨年度の課題であった「書くこと」については、改善がみられる。一方、学力上位層が少なく、中・低位層の児童が多い。領域別で「言語等の知識や理解」に課題が見られる。

## 1、正答数分布



○ 大阪府や全国と比べ、学力上位層が少なく、その分、中・低位層が多くなっている。

## 2、分類・区分集計結果

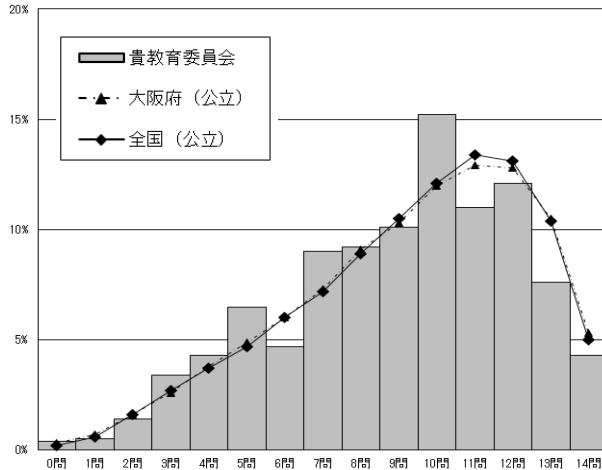
分類	区分	設問数	共通問題(全14問)			対府比
			平均正答率(%)			
			本市	全国	大阪府	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	67.2	72.3	68.8	0.977
	書くこと	3	51.9	54.5	52.9	0.981
	読むこと	3	78.8	81.7	79.3	0.994
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	5	45.6	53.5	48.2	0.946
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	53.8	57.6	53.4	1.007
	話す・聞く能力	3	67.2	72.3	68.8	0.977
	書く能力	3	51.9	54.5	52.9	0.981
	読む能力	3	78.8	81.7	79.3	0.994
	言語についての知識・理解・技能	5	45.6	53.5	48.2	0.946
問題形式	選択式	7	71.7	75.1	73.3	0.978
	短答式	4	39.7	48.7	42.8	0.928
	記述式	3	53.8	57.6	53.4	1.007

○ 昨年度「書くこと」の領域が課題であったが、改善が見られた。例えば、資料などの目的や意図を捉える問題はよくできていた。一方、「言葉等の知識や理解」には課題が見られ、例えば、同音異義語に注意して漢字を文の中で使うことや、文と文のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて記述することについて、できていない児童が多い。

# 小学校 算数

平均正答率は 64.3%で、大阪府や全国を下回っていて、その差は小さくなっている。昨年度の課題であった「図形」の領域については、改善がみられる。一方で、学力上位層が少なく、中位層の児童が多い。また、記述で答える問題に課題が大きい。

## 1. 正答数分布



○ 大阪府や全国と比べ、学力上位層が少なく、中位層が多くなっている。

## 2. 分類・区分集計結果

分類	区分	設問数	共通問題(全14問)			対府比
			平均正答率(%)			
			本市	全国	大阪府	
学習指導要領の領域等	数と計算	7	60.9	63.2	63.4	0.961
	量と測定	3	49.0	52.9	52.0	0.942
	図形	2	76.1	76.7	76.0	1.001
	数量関係	7	65.7	68.3	68.3	0.962
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0	-	-	-	-
	数学的な考え方	8	59.7	62.2	61.9	0.964
	数量や図形についての技能	4	70.5	73.6	73.2	0.963
	数量や図形についての知識・理解	2	69.1	70.1	70.9	0.975
問題形式	選択式	5	73.9	75.7	75.7	0.976
	短答式	5	71.3	72.8	73.1	0.975
	記述式	4	43.1	47.4	46.4	0.929

○ 昨年度「図形」の領域が課題であったが、改善が見られた。例えば、長方形を切ってできた図形の中から台形を選ぶ問題については、相当数の児童ができています。一方、文を書いて答える問題に課題が見られる。例えば、減法の式が、示された形の面積をどのように求めるのか、記述することについてできていない児童が多い。

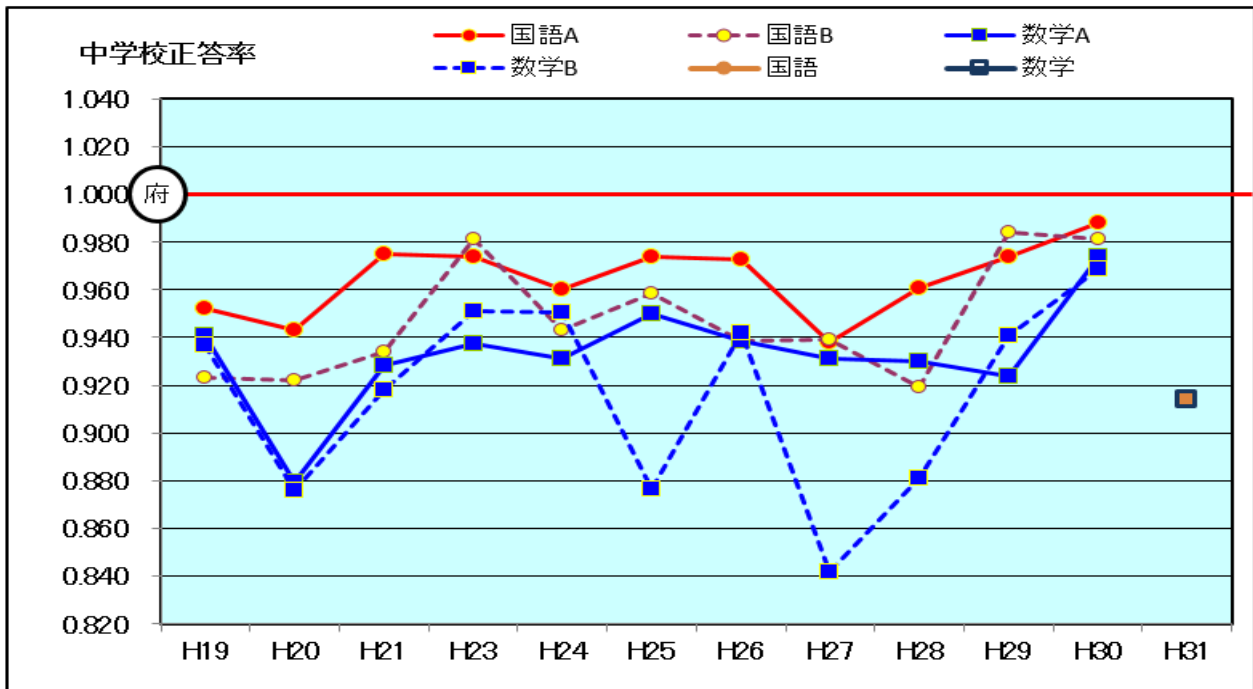
# 中学校の結果の概要

1. 経年変化の様子 対象学年は第3学年 平成22年度は悉皆調査は実施されず。

国語	全国学力調査						大阪府学力調査						全国学力調査											
	H19		H20		H21		H23		H24		H25		H26		H27		H28		H29		H30		H31	
	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題		
泉南市	75.4	60.0	66.5	50.9	70.9	63.8	67.2	52.2	62.5	44.6	71.4	60.4	74.9	44.3	69.8	60.9	70.7	58.2	73.4	67.7	73.8	57.8	64.0	
対府比	0.952	0.923	0.943	0.922	0.975	0.934	0.974	0.981	0.960	0.943	0.974	0.959	0.973	0.939	0.938	0.939	0.961	0.919	0.974	0.984	0.988	0.981	0.914	
対全国比	0.924	0.833	0.904	0.837	0.921	0.856					0.935	0.896	0.943	0.869	0.920	0.925	0.935	0.875	0.947	0.937	0.972	0.946	0.879	
大阪府	79.2	65.0	70.5	55.2	72.7	68.3	69.0	53.2	65.1	47.3	73.3	63.0	77.0	47.2	74.4	64.8	73.5	63.3	75.3	68.8	74.7	58.9	70.0	
全国	81.6	72.0	73.6	60.8	77.0	74.5	-	-	-	-	76.4	67.4	79.4	51.0	75.8	65.8	75.6	66.5	77.5	72.2	75.9	61.1	72.8	

数学	全国学力調査						大阪府学力調査						全国学力調査											
	H19		H20		H21		H23		H24		H25		H26		H27		H28		H29		H30		H31	
	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題	A問題	B問題		
泉南市	65.3	51.8	53.2	39.6	55.6	48.2	58.2	36.8	61.0	38.4	58.6	34.0	61	53.6	59.9	34.9	57.4	38.0	58.8	43.3	63.6	44.3	53.0	
対府比	0.941	0.937	0.879	0.876	0.928	0.918	0.937	0.951	0.931	0.950	0.950	0.876	0.938	0.942	0.931	0.842	0.930	0.881	0.924	0.941	0.974	0.969	0.914	
対全国比	0.908	0.855	0.843	0.805	0.887	0.847					0.920	0.819	0.905	0.896	0.930	0.838	0.922	0.861	0.908	0.902	0.962	0.941	0.886	
大阪府	69.4	55.3	60.5	45.2	59.9	52.5	62.1	38.7	65.5	40.4	61.7	38.8	65.0	56.9	64.3	41.4	61.7	43.1	63.6	46.0	65.3	45.7	58.0	
全国	71.9	60.6	63.1	49.2	62.7	56.9	-	-	-	-	63.7	41.5	67.4	59.8	64.4	41.6	62.2	44.1	64.7	48.0	66.1	47.1	59.8	

2. 経年変化のグラフ 年度によって問題の難易度が違うので大阪府平均に対する比という形で表現している。



○ 中学校は、国語、数学の2教科とも大阪府・全国の平均を大きく下回っている。H28年以降、2教科とも大阪府・全国平均に近づいていたが、今年度はポイントの差が大きく開いた。

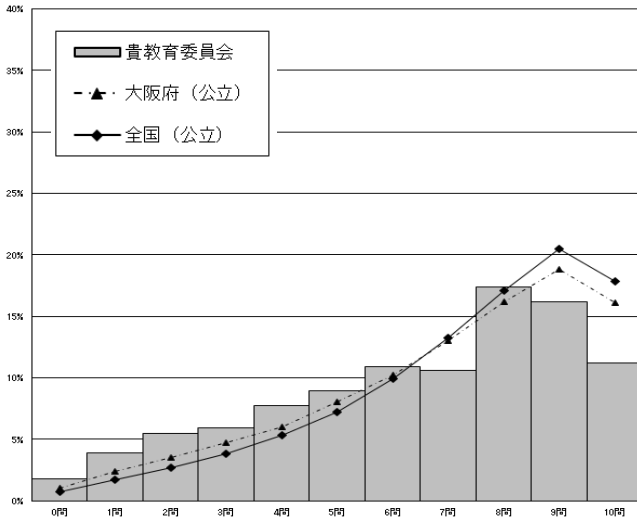
3. 成果・課題のあった特徴的な設問の結果 ( )内は全国との差

国語	<p>成果 「みんなの短歌」に掲載されている短歌の中から一首を選び、感じたことや考えたことを書く設問の正答率 86.4% (-4.8)</p> <p>課題 「海外に広がる弁当の魅力」で述べられている、弁当の魅力として適切なものを選択する設問の正答率 48.6% (-12.9)</p>
数学	<p>成果 <math>\triangle ABC</math> を、矢印の方向に <math>\triangle DEF</math> まで平行移動したとき、移動距離を求める設問の正答率 79.7% (-3.9)</p> <p>課題 冷蔵庫 B と冷蔵庫 C について、式やグラフを用いて、2つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する設問の正答率 23.2% (-11.5)</p>

# 中学校 国語

平均正答率は 64.0% で、大阪府や全国を大きく下回っている。学力上位層が少なく、低位層の生徒が多い。どの領域にも課題があるが、特に「書くこと」の領域に課題が大きい。また、生徒が記述式問題を苦手としている。

## 1, 正答数分布



○ 大阪府や全国と比べ、学力上位層が少なく、低位層が多くなっている。

## 2, 分類・区分集計結果

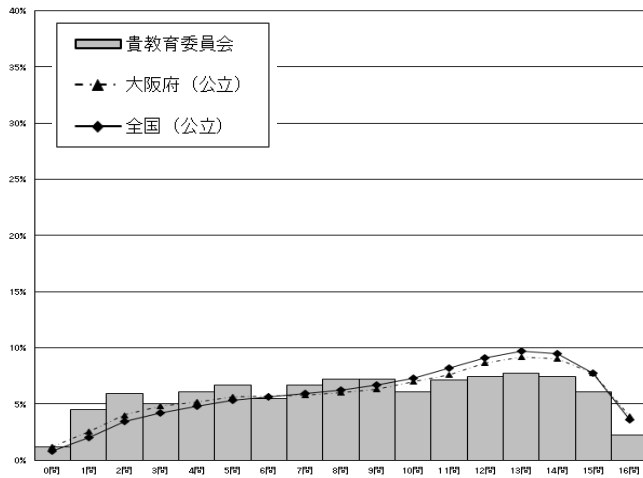
分類	区分	設問数	共通問題(全10問)			対府比
			平均正答率(%)			
			本市	全国	大阪府	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	62.0	70.2	66.9	0.927
	書くこと	2	74.5	82.6	80.2	0.929
	読むこと	3	63.1	72.2	69.2	0.912
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	2	60.1	67.7	65.8	0.913
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	67.8	76.5	72.6	0.934
	話す・聞く能力	3	62.0	70.2	66.9	0.927
	書く能力	2	74.5	82.6	80.2	0.929
	読む能力	3	63.1	72.2	69.2	0.912
	言語についての知識・理解・技能	2	60.1	67.7	65.8	0.913
問題形式	選択式	6	65.5	73.6	71.4	0.917
	短答式	1	48.1	56.8	54.2	0.887
	記述式	3	67.8	76.5	72.6	0.934

「書くこと」の領域で、文章に示されていることがらについて、自分の考えを書くことは、相当数の生徒が答えることができているが、根拠などを示しながら書くことに課題がある。例えば、話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えを書くことや伝えたいことがらについて、根拠を明確にして書くことができていない生徒が多かった。また、記述で答える問題では無解答率が他に比べて高い。

# 中学校 数学

平均正答率は、53.1%で、大阪府や全国を大きく下回っている。学力上位層が少なく、中・低位層の生徒が多い。  
どの領域にも課題があるが、特に「関数」の領域に課題が大きい。また、生徒が記述式問題を苦手になっている。

## 1, 正答数分布



○ 大阪府や全国と比べ、学力上位層が少なく、中・低位層が多くなっている。

## 2, 分類・区分集計結果

分類	区分	設問数	問題(全16問)			対府比
			平均正答率(%)			
			本市	全国	大阪府	
学習指導要領の領域等	数と式	5	56.8	63.8	62.6	0.907
	図形	4	67.3	72.4	71.3	0.944
	関数	3	32.8	40.8	39.6	0.828
	資料の活用	4	49.3	56.3	53.8	0.916
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0	-	-	-	-
	数学的な見方や考え方	8	44.3	51.0	49.7	0.891
	数学的な技能	3	57.9	63.9	62.2	0.931
	数量や図形などについての知識・理解	5	64.2	71.3	69.5	0.924
問題形式	選択式	5	53.1	60.3	59.1	0.898
	短答式	7	60.3	66.6	64.9	0.929
	記述式	4	40.3	47.1	45.7	0.882

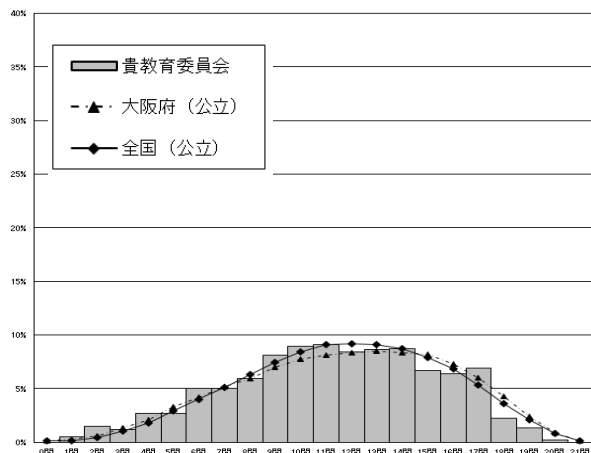
「図形」の領域で、課題はあるものの、平行移動の意味や証明の根拠として用いられている合同条件はおおむね理解できている。

一方、「関数」の領域で、課題が大きく、特に日常のことがらを数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができていない。また、「資料の活用」の領域でも課題が大きく、特に資料を整理した表から最頻値を求めることが多くの生徒ができておらず、知識の定着に課題がある。

# 中学校 英語

平均正答率は、「話すこと」の領域を除き 53.8%で大阪府や全国を下回っているが、「話すこと」の領域では、2.9%全国より上回った。「聞くこと」の領域で課題が見られる。生徒が記述式問題を苦手になっている。

## 1、正答数分布



○ 大阪府や全国と比べ、学力上位層が少なく、中・低位層が多くなっている。

## 2、分類・区分集計結果

分類	区分	設問数	共通問題(全21問)			
			平均正答率(%)			対府比
			本市	全国	大阪府	
学習指導要領の領域等	聞くこと	7	63.3	67.9	66.8	0.948
	話すこと(参考値)					
	読むこと	6	53.1	55.6	55.3	0.960
	書くこと	8	45.9	45.8	47.4	0.968
評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	0	-	-	-	-
	外国語表現の能力	1	1.8	1.8	1.9	0.947
	外国語理解の能力	6	40.8	44.7	44.2	0.923
	言語や文化についての知識・理解	14	63.0	64.7	65.1	0.968
問題形式	選択式	13	68.0	71.4	70.7	0.962
	短答式	5	45.2	45.2	47.7	0.948
	記述式	3	6.0	6.8	7.0	0.857

「話すこと」領域(参考値)

分類	区分	設問数	共通問題(全5問)			
			平均正答率(%)			対全国比
			本市	全国 (国公立)	大阪府	
学習指導要領の領域等	聞くこと					
	話すこと(参考値)	5	33.7	30.8		1.094
	読むこと					
	書くこと					
評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	0				
	外国語表現の能力	2	27.2	28.1		0.968
	外国語理解の能力	0				
	言語や文化についての知識・理解	3	38.1	32.6		1.169
問題形式	選択式	0				
	短答式/口述式	3	38.1	32.6		1.169
	記述式/口述式	2	27.2	28.1		0.968

「話すこと」の領域では、全国と比べ2.9ポイント上回った。一方、「聞くこと」の領域で、課題が見られる。特に、英語を聞いて、その指示の内容を表している絵を選択する問題で課題が見られた。また、「書くこと」の領域では、一定量の文を書くことに対して多くの生徒はできていない



生活習慣や意識に関する調査（児童生徒質問紙調査）の結果

質問事項	小学校			中学校		
	泉南市	大阪府	全国	泉南市	大阪府	全国
自分には、よいところがある	<u>81.4</u>	77.9	81.2	<u>63.9</u>	68.4	74.1
将来の夢や目標を持っている	80.5	81.2	83.8	66.8	67.4	70.5
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	<u>97.8</u>	96.9	97.1	94.3	93.9	95.5
人の役に立つ人間になりたいと思う	<u>97.5</u>	94.7	95.2	92.8	93.2	95.1
朝食を毎日食べている	94.2	94.1	95.3	90.6	90.2	93.1
毎日、同じくらいの時刻に寝ている	<u>82.6</u>	79.1	81.4	73.0	76.8	78.0
毎日、同じくらいの時刻に起きている	91.1	90.1	91.6	89.9	91.5	92.8
家で、自分で計画を立てて勉強する	64.0	63.4	71.5	44.1	46.4	50.4
学校の授業時間以外に、1時間以上勉強する（月～金塾・家庭教師含む）	<u>54.1</u>	58.3	66.1	62.1	68.2	69.8
学校の授業時間以外に、1時間以上読書する（月～金）	12.0	15.8	18.3	9.7	10.3	12.4
家の人と学校での出来事について話をする	75.2	75.2	77.4	70.3	73.4	76.4
地域の行事に参加している	<u>56.0</u>	57.8	68.0	<u>39.6</u>	39.4	50.6
国語の授業の内容はよく分かる	84.1	85.0	84.4	74.5	76.8	77.6
算数(数学)の授業の内容はよく分かる	<u>87.0</u>	85.0	84.0	69.0	75.6	77.6
授業で学んだことを、ほかの学習に生かしている	80.0	78.7	82.9	<u>64.1</u>	70.1	74.9
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う	75.9	74.2	77.7	70.7	70.9	74.8
自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思う	59.9	58.7	62.5	<u>44.7</u>	53.5	55.8
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う	<u>75.8</u>	71.2	74.1	<u>73.0</u>	67.5	72.8

「あてはまる」「どちらかというあてはまる」と回答した児童生徒の割合(%)

# 今年度実施している学力向上のための取組み

## 少人数指導・習熟度別指導の実施

各校に加配されている教員を中心に、学校の実態に合わせて少人数指導・習熟度別指導を実施。一斉授業では比較的難しい個に応じたきめ細かな指導を進めている。教科は、国語、算数・数学、英語で実施。単元や指導内容に応じて、均等分割、習熟度別、課題別、チームティーチング等の体制をとっている。

## 小学校における専科指導教員の配置

中学校教員が小学校で教科指導を行うことで、小中連携を一層推進し、子どもたちの確かな学力を育む一助となっている。令和元年度は、昨年度に続いて、一丘中学校区において外国語活動を実施し、新学習指導要領実施に向け小学校教員の外国語活動の授業力向上をめざしている。これまでに、H24～26年度は信達中学校区、H27、28年度は一丘小・西信達中学校区において外国語活動を実施。H29年度は西信達中学校区で理科教員を配置した。

## 確かな学びを育む学校づくり推進事業の実施

大阪府教育庁の確かな学びを育む学校づくり推進事業を活用し、加配教員が中心となって、学校活性化に向けて組織的・計画的に取り組み、授業づくりや学習規律の向上、自学自習力の育成や保護者等との連携などに進めている。令和元年度は昨年度から継続し、泉南中学校、一丘小学校、鳴滝小学校で実施。泉南市全体の学力向上をめざして、実施校の取組みを泉南市全体で共有している。これまでに、H25～27年度は、スクール・エンパワーメント推進事業として、一丘中学校で実施し、H28年度は泉南中学校で実施している。H29年度は、アクティブ・スクール推進事業として、泉南中学校、樽井小学校と一丘小学校でも実施している。

## 学力向上スタンダードと学校活性化計画の活用

泉南市の学力向上スタンダードをベースに、各校の学力の課題に沿った形で14校の学力向上スタンダードを確立。「校内組織」「授業づくり」「学習規律」「家庭学習」「保護者・地域、校種間連携」の各分野において取組み内容・目標について全教職員をあげて方向性を確認。授業改善に取り組んでいる。

## 学校間交流の活性化

各学校で進めている学力向上の取組みを校長、学力向上担当者等の会合で交流している。また、学校が行っている公開授業等を、小中学校の校種を越えて互いに授業参観し、交流することで教員の授業力の向上を図っている。

## 指導主事による若手教員の育成

市教委指導主事が各学校を訪問し、経験年数の少ない若手教員の育成にあたっている。授業づくりだけでなく、教師としての心構え、児童生徒や保護者とのかかわり方、学級経営のポイント等についてアドバイスを行っている。

## 放課後等での補充学習の実施

各学校で放課後等、授業以外の時間に基礎・基本の学力をつけるための補充学習を実施。「泉南スタディ事業」として、学習支援員を活用し補充学習の充実を図っている。

# 学力向上に向けた重点課題

## ＜教育委員会の取組み＞

### ○国際化教育の推進

J E Tプログラムの活用により、A L T (外国語指導助手)を増員し、小中学校の英語教育を充実する。

### ○教員一人ひとりの授業力向上

経験年数の少ない教員が増える中、継続的な授業研究・授業力向上が必要である。教員をサポートできる研修会の実施、授業研究における支援や助言等、大阪府教育庁と連携しながら教員一人ひとりの授業力向上をめざす。また、各学校での学力向上の取組み推進に向けて、組織的・計画的な校内研修のサポートや取組みの学校間交流をすすめる。

### ○小中一貫教育の推進

学力向上については、担当者を集め、実践報告および中学校区等での実践交流を行い、学力調査から見える課題と成果の共有を進める。また6年生児童（新中学1年生）においては、春休みの宿題を実施し、4月からの新たな学習に備え、復習・点検を行う。

### ○読書活動の推進

子どものニーズに応じた学校図書館の充実に努めるとともに、学校司書の活用及び市立図書館との連携により、学校・家庭における読書の習慣化に向けた取組みを進める。

## ＜各学校の取組み＞

### ○各校に応じた学力向上スタンダードの確立と学校活性化計画の作成

各校の課題に沿った形で〇〇小、〇〇中学校学力向上スタンダードを確立し、全職員がベクトルを揃え、課題解決のために取組んでいる。また、それらが形骸化しないように学校活性化計画を作成し、学力向上スタンダードの確実な履行に向けて管理職及び校内の学力向上担当者が中心となって進捗管理及び調整を行っている。

### ○「めあて・課題」を明確にした授業改善の徹底

「めあて・課題」を目に見える形で示し、授業の終わりには、それが達成できたかどうかを振り返る時間を確保する。何を学ぶか、そして何ができるようになったのかを明確にし、一人ひとりの学びを確かなものにする。

### ○基礎基本の学力をつけるために

一人ひとりの課題を把握し、朝学習や放課後学習などの補充学習や、タブレットドリルの活用等、基礎・基本の学力をつけるための取組みを更に充実する。

### ○家庭学習の推進・工夫

自ら学ぶ習慣をつけるために、教育委員会と連携して家庭学習を推進する。課題の与え方、保護者への働きかけなどを工夫する。